

1. 2020 年度事業報告

《20 年度事業総括》

20 年度は新型コロナウイルスの影響に配慮して新規事業は行わず、既存事業を定着させる期間とする予定であったが、芸術文化関係者の困窮に対応して影響調査を行い、子どもたちの芸術体験の機会をオンラインでも確保するため「アーティストカタログ 2020 おうち時間版」を作成するなど、結果として新規の取り組みも行った。

一方で、実施を予定しながらコロナ禍などにより動きがなかった事業もあり、先の読めない状況が続いている。

しかしながら特に重点をおいた「ぶっとびファンド」の運営と地域共生社会の実現に向けた事業については、一定の成果をあげている。

I 芸術体験サポート

I-1 高齢者の芸術体験コーディネート事業（継続）

PD ダンス（パーフェクトダンス/パーキンソンダンス）について、成果検証と発信を行った。この活動はコロナ禍のためすべてオンラインで実施され、成果検証もオンライン上での観察となった。発信については、アートミーツケア学会オンラインジャーナル第 12 号に論文として掲載。

医療法人の認知症患者のための芸術ワークショップは、コロナ禍により外部からの立ち入りが制限され、事業を進めることができなかった。

「なみきスクエア」からの依頼による認知症カフェで行う芸術体験型活動は、介護事業者等有志の団体との協働により音楽 1 回、演劇 1 回のワークショップを実施した。外出がままならない状況下で参加者は少なかったものの、実施の意義は関係者間で共有されている。

I-2 「アーティストカタログ 2020 おうち時間版」（新規）

コロナ禍により芸術体験の機会を失い学校も休校になるなど大きな環境の変化にさらされた子どもたちのために、オンラインでできる芸術体験のメニューを提供した。2016 年版を最後に休止していた「アーティストカタログ」を期間限定（2020 年度末で掲載終了）で復活させ、各アーティストが提示するメニューにリンクを貼る形で 11 団体の活動をアートサポートふくおか公式サイトに掲載した。

II 芸術文化を通じた地域共生社会の実現（継続）

II-1 ホームレスの就労自立支援のための演劇によるコミュニケーション講座（継続）

科研費対象事業の第 2 ステージ（4 ヶ年）最終年度にあたり、フォーラムシアターを映像化した DVD を使用し研修を実施する予定であったが、協力していただいていた就労自立センターの事情によりホームレス状態の方を対象とした DVD による講座は実施できなかった。代わりに、大学生と一般社会人を対象とした対面・オンラインによる講座を計 4 回実施し、研究の締めくくりとした。

II-2 フリースクールでの演劇ワークショップに関するコーディネートと成果検証（継続）

「なみきスクエア」主催事業として実施される、フリースクールにおける演劇ワークショップについて、コーディネートと成果検証を担当した。吉柳佳代子氏を講師として年間 18 回実施予定であったが、コロナの影響により回数を削減し 10 回の実施とした。

III アートと地域をつなぐ人材養成

Ⅲ-1 「芸術文化のまちづくりゼミ」の開催（継続）

2006年度に開始したコーディネーター養成講座の発展形である「芸術文化のまちづくりゼミ」を毎月定例の「@古賀研究室」として第3火曜日の夜に開催していたが、2020年3月以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止を余儀なくされた。感染状況が比較的落ち着いていた11月に1回、人数を10人→5人に限定して実施。研究室の書籍貸し出しが好評であった。

Ⅲ-2 「ぶっとびファンド」の運営（継続）

第2回「ぶっとびファンド」の募集を9～10月に実施。8団体を採択した。第1回の採択団体（15団体）による報告会は2021年4月に開催。

なお、新型コロナウイルスの影響により困窮するアーティスト、芸術文化団体への支援の意味合いも込め、予定していた活動ができない場合でも助成金は満額振り込みをしている。

Ⅲ-3 学生による文化のまちづくり活動等支援（継続）

学生が行う文化のまちづくり活動への支援、芸術体験ワークショップの企画運営サポート等を行う予定であったが、例年依頼を受けていた福岡県立ももち文化センターの「ももちオープンデー」が中止となり、実施できなかった。

Ⅲ-4 他団体の人材養成事業等への協力（継続）

研修講師、原稿執筆等、他団体による人材養成事業への協力実績は以下のとおり。

- ・6～3月 柳川市市民文化会館「Suito やながわ」市民サポーター養成講座
- ・3月27日 「M. M. S. T」communicatio 対談「劇場の質」
- ・高知市子ども劇場50周年記念誌寄稿「『密』になれない時代の先に、舞台芸術ができること」
- ・ふくおか子ども白書2021寄稿「芸術文化の力で子どものエンパワーメントと包摂的な社会の構築を」

Ⅳ 被災地に対する芸術文化を通じた復興支援事業（継続）

阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震の被災地で、演劇を中心とする芸術文化ができることを考える「The First Action Project」の支援については、県境をまたぐ移動が困難であったことから支援できる動きがなかった。

Ⅴ 情報提供事業（継続）

アートサポートふくおかの事業に関する情報を中心にメールを通じて提供した。協力会員を対象としたニューズレターは年4回（5月、8月、11月、2月）発行。

Ⅵ その他

Ⅵ-1 福岡における文化芸術関係者の新型コロナウイルスの影響に関するアンケート調査結果（新規）

ニッセイ基礎研究所・大澤寅雄氏、九州大学・長津結一郎氏と共に、新型コロナウイルス感染拡大の芸術関係者への影響を確認し、政策提言につなげるため、5/2～9の期間でWebアンケートを実施。その結果をとりまとめ、福岡県・福岡市・福岡市文化芸術振興財団へ提言を行った。また、アンケート結果と提言内容について、Zoomでの記者会見も開催し、朝日、読売、西日本、日経の各紙に記事が掲載された。

VI-2 各種委員等（継続）

NPO 法人の役員、行政の各種審議会等の委員の実績は以下のとおり。

NPO 法人ふくおか NPO センター監事

芸術文化振興基金運営委員会文化施設公演活動等専門委員会専門委員
福岡県営筑後広域公園・芸術文化交流施設「九州芸文館」運営協議会委員
福岡県文化財保護審議会臨時専門委員
九州国立博物館「世界と繋がるクロスロード太宰府推進事業」アドバイザー
福岡市文化芸術振興財団理事
福岡市文化施設管理運営評価委員会委員
宗像市市民文化・芸術活動審議会委員（会長）
大野城市芸術文化審議会委員（会長）
大野城市共働事業提案制度推進委員会委員
遠賀町いきいきおんが推進委員会委員（会長） ほか